

令和5年度 学校経営報告書(自己評価)

学校番号	28	学校名	静岡県立富士宮北高等学校	校長名	山野 良成
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組(重点目標はゴシック体で記載)

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当
ア	規律・礼節、規範・帰属意識を醸成し、主体的で健全な生活態度を育成する。	・「服装・頭髪指導がしっかりしている」「マナーがよい」保護者評価が各90%以上	・保護者評価が「服装・頭髪指導がしっかりしている」93%(-2%)、「マナーがよい」85%(-6%) 昨年度より低い評価になった ・駐輪場マナーが悪い ・登校指導5日(-1日)、昼巡視30日(±0日)、下校指導4日(±0日)実施し挨拶の励行、携帯マナー指導を行った。 ・交通事故11件(-3件) ・交通安全教室4月に実施 ・ケイタイマナー教室1回夏休み前に実施	B	・「服装・頭髪指導がしっかりしている」昨年度まで8年連続アップしていたが今年度はマイナスであった。校則の変更により、生徒の判断を促す中での指導が今後の課題。細かいところで、ネクタイ、リボン忘れ、スカートの下にジャージをはくなどが目立った。校則の変更による数値の変化を注目すべき。 ・自転車運転指導カードを受ける生徒が急増。ルールを理解を促すことが来年度の課題。	生徒
		・「教職員は、悩みなどの相談にのってくれる」生徒評価90%以上 ・特別支援が必要な生徒への適切な配慮と支援の実施	・学校評価アンケートによる生徒の評価94% ・特別支援教育研修の実施や、ケース会議の実施、分校職員との情報交換等をした。	A	・教育相談や特別支援についての職員研修を継続して行っていく。 ・特別支援については、分校との連携を図りながら進めていく。 ・引き続き開けた相談室を目指していく。	保健
		・行事(創立記念行事・式典等)を通じた校訓・校歌の理解・浸透	・式典や集会等で、校長や職員が校訓について話したので、生徒は理解を深めた。 ・1学期終業式から応援団長の指揮、吹奏楽部の演奏で校歌を歌うようにした。	B	・他の分掌、学年と連携して、継続的な指導を行う。 ・コロナ禍3年間の影響で、生徒は大きな声で校歌を歌えていない。昼休みに放送で流すなどの工夫が必要か。	総務
イ	オンリーワン事業や探究的な学習等を通して、自ら学ぶ態度・確かな学力を定着させ、将来社会で活躍できるグローバルリーダーを育成する。	・「分かりやすく学力が付く授業」85%以上 ・「自らの考えを表現できる生徒」60%以上 ・一日平均普通科90分以上、商業科60分以上	生徒 93.9% 保護者 90.9% 生徒 90.7% 普通科 153.3分 商業科 100.1分	A	・タンタンの活動を通してインプットで終わらずに、アウトプットに繋げる機会を多く作っていた。 ・タンタンの準備(スライドや原稿)を含めれば学習時間はさらに増える。	教務

様式第3号

イ	オンリーワン事業や探究的な学習等を通して、自ら学ぶ態度・確かな学力を定着させ、将来社会で活躍できるグローバルリーダーを育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した授業の実施率 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの教員がICTを活用した授業を実施することができた。(37/38)97.4% 	A	ICT活用のための環境整備を推進する。(ルータ、プロジェクト等の整備)。職員のICT活用能力向上のための研修を検討し、授業力の向上を図る。	情報
		<ul style="list-style-type: none"> 「主体的対話的で深い学びの実現に結び付く授業改善に取り組んでいる」職員評価 90%以上 新課程における適切な観点別評価の実施 100% 授業公開週間を年2回以上実施 生徒による授業改善のためのアンケート実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的授業」について生徒・保護者ともに肯定率が90%以上で評価が高いが、教員の評価は81% 授業研修週間を1,2学期に1回ずつ実施 生徒による授業改善のためのアンケート1,2学期に1回ずつ実施。ロイロノートでの実施も行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業については生徒・保護者の評価が高く、主体的・対話的授業が定着していると考えられる。教員の意識も前年度より高くなり、80%を超えた。 授業参観率が低いので、他の研修と結びつけながら行う等工夫が必要だと思われる。 	図書
		<ul style="list-style-type: none"> コンソーシアムの実施 年3回、地域と連携した関係事業の実施 10回以上 	<ul style="list-style-type: none"> コンソーシアムを2回実施、3回目も2月に行う予定 地域と連携した事業や講演等を27回実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> オンリーワン委員会の先生方を中心に多くの事業が実施できた。 	探究・オンリーワン
ウ	学んだ知識や技能を実際に活用した実践的商業教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 対外的な商業活動 20名以上 3年の課題研究発表会の実施 商業科2級以上取得 95%以上、1級3種目以上取得 30%以上 「授業等で実践的な取組ができた」と答える生徒 70%以上 外部人材による講演会の実施 商業科体験入学会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> プロフェッショナルへの道や日本高校会議所総会での発表、コンテスト参加など、20名以上の生徒が対外的な活動をした。 3年課題研究発表大会 1月11日実施。 2級以上取得 80/81人 99% 1級3種目以上取得 44/81人 54%(令和3年入学生 24.1.17 現在) 「授業等で実践的な取組ができた」と答えた生徒 100% (令和3年入学生) プロフェッショナルへの道事業を活用し、年間を通して様々な講師による講演・講座を実施。また弁理士による知的財産権講座、ファイナネット協同組合による情報処理講座を実施した。 商業科体験入学会では、簿記と情報の講座で体験授業を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 対外的な活動や発表に向けた活動を通して、商業の見方や考え方を養うことができた。 昨年度より充実した校内課題研究発表会が実施できた。代表班は県商業教育研究会の課題研究発表大会に動画参加した。 半数以上の生徒が1級3種目以上に合格(県内トップ 予想)。次年度以降は授業の内容も異なるため(新課程)、目標合格率を見直す必要がある。 商業を学ぶ生徒が、実践的な取組ができたことを実感する授業を行うことができた。 外部人材の講座を実施し、生徒の思考力を深めることができた。来年度も多様な人から学ぶ授業を実施する。 中学生・保護者に商業科の魅力について周知することができた。商業科教員の負担を考慮しながら、来年度の実施方法も検討したい。 	商業

エ	<p>自己理解・目的意識を高め、系統的な指導を通して個に応じた進路実現を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校外模試偏差値 50 以上が1・2年で 20 人以上、3年で 10 人以上 ・「北高は生徒一人一人に応じて、計画的な進路指導が行われている。」生徒肯定評価 90%以上、保護者肯定評価 80%以上 ・「進路決定先満足度」3年生肯定評価 95%以上 ・生徒の進路意識を向上させるため、学期に 2回以上自らの行動を記録させ、学期に1回程度内容を振り返ることで、その後の行動が主体的で意識的になること ・「学びの基礎診断」としての測定ツールを活用し、学年等で検討会を実施し、進路指導に活用する。 ・新しい入試に対する情報を収集し、その結果を生徒に伝える機会を学期1回程度持つことで、生徒と教員の情報共有ができること 	<ul style="list-style-type: none"> ・3 年生 11 月共催マーク模試では国数英総合成績で偏差値 50 以上が 5/17 名、2 年生 11 月総合記述模試国数英総合 18/100 名、1 年生 11 月総合記述模試国数英総合 17/119 名であった。合計人数は 40 名。 ・「計画的な進路指導が行われている。」保護者：86.0%、生徒：91.4% ・「進路決定先満足度」93.7% ・ロイロノートを活用して定期テスト、模擬試験の後に効果的な振り返りができた。 ・ベネッセに模試の分析と、新しい入試に対する情報を提供してもらい、学ぶことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・模試については、結果だけに注目せずに、次回につなげるための活用方法を検討していく必要がある。 ・継続的な学習のモチベーションをどのように持たせるか。 ・進路意識の高揚が必要。 ・受験の多様なあり方(特に総合型選抜や推薦型選抜)を早期に知り、学校生活に意義付けをしたい。 	進路
オ	<p>多様な活動への参加を通して、自己有用感・達成感、豊かな人間性、共生意識、社会的資質・能力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「充実した部活動により人間性が高められた」と答える生徒 85% 以上 ・ボランティア活動に参加 50%以上 ・生徒会を中心としたボランティアの参加4回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「部活動に参加し、生徒の人間性が高められた」生徒評価 89% (+2%) ・「ボランティア活動に参加した」生徒評価 40% (+4%) ・生徒会を中心としたボランティア参加 4 回実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・3 年生を中心に約半数の生徒が参加した。参加希望者が多く人数制限をするほどであった。河川清掃(約 130 名参加)が 5 年目になり生徒の自主性が芽生えた。しかし、参加する生徒が固定化。参加したことがない生徒に参加させたい。 ・富士宮環境フェアにてボランティアの成果を発表した。 	生徒
	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書を時間通り始めているクラス 100% ・奨励図書の子供公募、ビブリオバトル活動の継続 ・図書貸出各クラス 100 冊以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「時間通りに朝読書に取り組んだ」について生徒は 96%と回答しており、落ち着いて実施ができている。 ・ビブリオバトルの取り組みは良好である。 ・ブックフェア、図書購入、読書週間を行った。 ・図書貸出 100 冊以上1クラス 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校外で行われているビブリオバトルへの声掛けを行っているが、実際に参加する生徒はいない。 ・読書週間を設定し2日間のしおり作りワークショップの実施や図書委員による POP 作りなどを行い、図書館利用や貸し出しを奨励する活動を積極的に行った。 	図書	

様式第3号

オ	多様な活動への参加を通して、自己有用感・達成感、豊かな人間性、共生意識、社会的資質・能力を育成する。	・「学校は清掃や整頓がきちんと行われていてキレイである」職員評価 70%以上	学校評価アンケートによる教職員の評価 54%	C	・清掃場所の精選を行うとともに新たな清掃用品の導入を検討する。 ・ゴミ捨てルールの変更により、ゴミ分別の検討を行う。	保健
		・分校との交流 20回以上	・富士宮分校の交流は、北嶺祭体育の部、庭園・美化委員会による植栽作業、一年部生徒の交流等を、20回以上行うことができた。	A	・同世代との交流を通して、お互いを認め尊重し合う心を育てることができた。 ・より良い交流となるよう、開催時期ややり方について検討していきたい。	共生・共育委
カ	外部諸機関・地域との連携や積極的な広報活動を通して、開かれた学校づくりを推進する。	・教職員向け校内研修 2回以上 ・生徒の地域防災参加 60%以上	・教職員向けに、防災の校内研修を2回行った。 ・生徒の地域防災参加率は12%から33%に伸びた。 ・「防災訓練等で意識が高まった」が生徒 89%、保護者 77%、職員 88%に伸びた。	A	・効果的な防災訓練、研修を継続する。	総務
		・一日体験入学アンケート、満足度 70%以上 ・魅力的な体験入学および公開授業の実施	中学生 98.7% 保護者 97.9% アンケート高評価 中学生 99.2% 保護者 95.9%	A	満足度は非常に高かった。1回目の体験入学時に部活動で多くの生徒が校内にいなかったため、来校者に授業の様子を見せられるように日程調整が必要。	教務
		・効果的な広報資料の作成と中学校訪問年3回実施による志願者の確保	・広報用クリアファイルを脱プラ製品に変更。中学校訪問を年3回実施。中学校説明会における講演内容を改善。	A	・脱プラファイルは好評であった。学校案内と学校紹介動画は、中学生にとって更に親しみやすいものになった。・中学校訪問で得られた情報は、概ね本校に好意的なものばかりであった。	管理職
		・月4回以上のホームページの更新 ・PTA、学校後援会及び同窓会との連携強化	・学校行事等の記事を随時アップした。計 239 回(1/19 現在)。月平均 24 回。 ・PTA役員選出の方法や時期の見直しを行った。	A	・ホームページの更なる充実を進める。部活動のページを更新するよう呼びかける。 ・PTA活動の見直しと活性化を更に進める。 ・PTA、後援会、同窓会との連携を更に進める。	総務課
キ	教育活動を推進していくために必要な校内研修を実施し、教員の資質向上を図り、安全で信頼される学校づくりを推進する	・校内研修参加 95%以上、満足度 80%以上 ・事例研究、グループ研修を年3回以上実施 ・校外研修の報告することで情報共有	・校内研修参加率ほぼ 95%程度、満足度はほぼ 90% ・チーム研修 5 回実施。 ・ICT 活用についての研修報告を2回実施	A	・教員が満足する有益な研修を今後も行う。 ・チーム研修で話し合った内容を教員全体で共有するのが難しい。	図書

キ	教育活動を推進していくために必要な校内研修を実施し、教員の資質向上を図り、安全で信頼される学校づくりを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス委員会を年3回開催し、職場環境や教職員の勤務状況を把握して適切に対応 ・コンプライアンス通信を配布し注意喚起 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修を毎月実施。コンプライアンス通信をその都度配布した。グループワーク研修も行った。コンプライアンス委員会を年3回実施した。 ・セクハラはなかった。 ・体罰は1件、授業中寝ている生徒の頭を軽く叩いた教員がいた。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修によって、コンプライアンス意識が高まった。 ・引き続き、コンプライアンス意識の向上に努める。 	管理職・コンプライアンス委員会
		<ul style="list-style-type: none"> ・各教室への消毒設置100% ・感染症・熱中症の注意喚起を年3回以上実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・消毒液の設置100% ・ほけんだよりや掲示物等により、生徒保健委員会や教職員から感染症・熱中症の注意喚起を学期に1回以上実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、インフルエンザの集団感染があったので、来年度以降も感染症に対して、状況に応じて適切に指導していく。必要に応じて、よりよい環境整備も行っていく。 	保健
		<ul style="list-style-type: none"> ・監査等における指摘事項0件 ・光熱水費の前年比増10%以内(空調稼働分の節約) ・学校運営に係る予算について前年比10%節約 ・施設設備安全点検月1回以上0件 	<ul style="list-style-type: none"> ・監査等における指摘事項0件 ・使用量の前年比は電気2%減、水道9%増、ガス14%増 ・学校経営予算は前年比11%減 ・月1回以上の点検により、施設設備の安全管理を実施し事故発生0件 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き適正な事務処理に努め、ケアレスミスを減らす。 ・猛暑のため、空調稼働分の節約は難しかったが、県の事業を活用し、学校運営に係る予算は確保できた。 ・安全点検により、施設設備の修繕を実施した。今後も、安全で信頼される学校づくりを推進する。 	事務
ク	教職員の多忙化解消に向け、「業務改善」に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェックの結果が県平均より良好 ・職員会議は協議事項の意見交換を主として、連絡事項は分かりやすい資料の配布で簡略化 ・業務のデータを活用した効率的な業務の実施、次の担当者のために業務のマニュアル化 ・定期テスト監督の平準化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェックの本校数値は、県平均と同じ85ポイントであった。 ・職員会議や運営委員会の資料を完全PDF化し効率化を図った。会議時間を短縮も大いに進んだ。 ・多忙化解消への取組に対する職員アンケートの結果は3年連続上昇 R3:28%→R4:33%→R5:48% ・定期テスト監督の平準化は達成できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・結果は、昨年よりも良い。個別の項目では、県全体よりも良いものもある。 ・例年よりも会議時間は短縮している。引き続き、業務の精選、平準化について、改善を進める。 	管理職